

中村欣一郎市長の

# 山椒は小粒でも...

## 「もう海の博物館に賭けるしか仕方なかった」



Vol.52

バブルはまだ好景気のご真ん中で、建築家達は海外まで進出する中、相棒は国内の僻地への出張ばかりで、ほとんど家に帰る時間もなかった。ことに海の博物館の館長の口癖は「金がない」で、その割には要求が多く、その対応に苦労していた。担当していた所員は、現場に張り付き、建物の質を落とさない戦いを続けていた。(中略、1989年に収蔵庫が完成したものの、その後バブルが弾けるわたし達は、もう海の博物館に賭けるしか仕方なかったの、最後の手伝いとしてほとんど全員所員を海の博物館に送り込んだ。その時は、彼らに帰る場所があるかどうか分からなかった。だが、彼らは最後の最後まで現場で自分たちの出来ることに専念していた。(中略)だが、海の博物館だけは自信を持っていた。悔いのない出来だったから

2015.105-111

その悔いのない出来の海の博物館は平成4年に完成し、今年で30年になります。このたび日本建築家協会の「JAA 25年賞」を受賞しました。この賞は25年以上の長きにわたり、建物の存在価値を發揮し、美しく維持され、地域社会に貢献してきた建築を顕彰するものです。

一般的な表彰というと、建築に限らずまちづくりもそうなのですが、その時々流行っているものや奇をてらったものが、建物なら完成したとき、まちづくりであれば取り組みがスタートした初期のころに受賞されることが多くみられます。その後視察で訪れると大したことがないなあ、どころか失敗に終わっていることすら多々あります。それとは異なり、このJAA 25年賞は25年以上を経過した評価ということと25年分の成果を認める価値あるものなのです。

ちなみに冒頭に紹介した文

章は、海の博物館を設計監理された内藤廣さんの相棒(妻)の内藤鏡子さんの本「建築家の考えた家に住むということ」からの引用です。少々長い引用になりましたが、とてもテンポよく読むことができ、ページをめくるのに徐々にワクワクする気分を味わいました。この本は、海の博物館に併設のカフェ「あらみ」の本箱に置いてあります。コーヒーを飲みながら1時間少々で読めてしまいます。本によれば、内藤廣さんの三代は思い出したくない不遇の時代であったそうです。ほぼデビュー作といえる海の博物館での数々の受賞を契機に、島根県芸術文化センター、(いわさき)ちひろ美術館、富山県美術館。そういえば、来年春のNHK連続テレビ小説「らんまん」のモデルになった牧野富太郎の記念館も内藤建築です。



故石原館長と内藤廣さん

海の博物館では、3月31日まで開館50周年の特別展を開催中です。50年前にもかかわらず、展示内容にはすでにSDGsの思想が見られます。

# イコール パートナ シップ

Vol.144



ムルガナンダム氏

市民課人権・市民交流係  
☎ 1126

みなさんは、インドのアルナーチャラム・ムルガナンダム氏をご存じですか。2014年に米タイム誌の「世界で最も影響力のある100人」に選ばれた、簡易ナプキン製造機の発明者です。

男性のムルガナンダム氏が女性の生理問題に取り組んだきっかけは妻との結婚でした。当時は、不衛生な布を使用せざるを得ないほど生理用品が高価で、妻をはじめ、多くの女性たちが我慢して過ごしているという実態を知ったのです。妻の力になりたいという思いから試行錯誤し、低価格で衛生的な簡易ナプキン製造機の開発に成功しました。

また、農村の女性たちに開発した簡易ナプキン製造機を販売して起業を勧め、自立を促すなど意識改革にも努めました。

ムルガナンダム氏は声を

あげることができない女性たちの実態を真摯に受けとめ、インド社会でタブーとされていた生理問題に取り組み、救済のために人生をささげたのです。

日本では、生理があるにも関わらず、生理用品を手でできない状態である「生理の貧困」が社会問題となつていきます。経済的な理由のほかに、恥ずかしくて親に言えないなど、理由はさまざまですが、声をあげにくい状況は当時のインドと同じです。

市では、男女共同参画社会実現に向けた相談支援につなげるため、市役所窓口などで生理用品の配布を行うと同時にアンケートを実施し、実態の把握に努めています。ぜひQRコードから、回答への協力をお願いします。



アンケートQRコード